

[研究ノート]

Tasha と Thoreau

西 村 正 己*

アメリカの絵本作家 Tasha Tudor (1915–2008) が他界した。遺族が開設した追悼サイトには、病床で勇気もらったという日本人ファンの書き込みもある。その一部を原文のまま紹介する。

Every her word, photo, garden, principles of life . . . helped me and gave me the energy to live again. (www.tashatudor.legacy.com)

Tasha のことば、写真、庭、"principles of life" (人生訓?) が支えになったという。折しも日本では「ターシャ・チューダー展」が全国を巡回中で、訃報に接し書店には彼女の作品が並べられた。Tasha はガーデナーとしても知られ、自宅の庭は日本からツアーが出るほどの人気である。Tasha の庭と不離の関係にあるのがその生活スタイルであろう。望ましい老後のモデルとして彼女の暮らしぶりに憧れる女性が多い。あまたのブログへの書き込みの数がそれを証明している。Tasha には読者だけでなくファンもいるのだ。

Tasha はメディアでしばしば Henry David Thoreau (1817–62) を引き合いに出す。例えば DVD 「喜びは創り出すもの ターシャ・チューダー四季の庭」(NHK, 2005) では、「座右の銘」として *Walden; or Life in the Woods* (1854) の一節を次のようにアレンジして引用している。

* 福岡大学人文学部教授

If you live the way you imagine your life to be, you will meet with the success unexpected in common hours.

また月刊誌 MOE の単独インタビューの中でも Tasha は Thoreau に触れている。

アメリカの作家、ヘンリー・ディビッド・ソローもこう言っています。

「シンプルにすること…シンプルにすること」と。(2008年4月号)

この両者は比較してみたくなる人物である。

本稿は Tasha と Thoreau を比較検討するための予備ノートである。二者を比べる場合には二つの方法がある。対象同士を縦の関係と見て通時的に扱うか、横に並べて共時的に論じるかである。その前に対象を固定する作業が必要になるろう。

Thoreau は雑貨屋の次男として Massachusetts 州の Concord で生まれた。家業は後に鉛筆の製造から黒鉛の販売へと変わっていく。洗礼名は "David Henry" であったが、20歳のころ勝手に "Henry David" に改名している。Harvard を出たが定職に就かず、両手の指の数ほどの職種を経験している。今どきのフリーターより便利屋に近い。20歳のころから始めた日記はおよそ 200 万語に達し、後の講演や作品の材料になる。対メキシコ戦争の財源になるとの理由で人頭税の支払いを拒み、一晩だけ投獄されたことがある。そのときの体験に基づいた "Civil Disobedience" (1849) は後世の非暴力市民運動の指針になった。また森の湖畔に建てた小屋での独居生活をベースにした前述の *Walden* はネーチャーライティングの古典と目され、森林樹の観察記録は自然保護運動に大きく寄与することになる。44年の臨終のことばは "Moose" と "Indian" の二言であったという。(以後 Thoreau の生涯については、Walter Harding, *The Days of Henry Thoreau*, Alfred A. Knopf, 1965 を主に参照)

Tasha Tudor は Thoreau に 102 年遅れて Massachusetts 州 Boston で生まれている。父親はヨットなどの設計技師で母親は肖像画家。父親のミドルネームをもらって "Starling" と命名された。その父親は Tolstoy (1828-1910) に

心酔し、娘を "Natasha" のニックネームで呼んでいた。文豪の大作に登場するヒロインの名前である。Tasha は後に "Natasha" を "Tasha" に縮め、母方の苗字も取り入れて "Tasha Tudor" に改姓改名する。Mark Twain (1835-1910) や Albert Einstein (1879-1955) など名士の出入りする社交場であった実家になじめず、幼少のころから農業に憧れていたという。57歳のとき30万坪の土地を手に入れ、家具職人の息子に古びた民家を建ててもらった。ひと昔前の生活スタイルが彼女の願望であった。Tasha の名声は100冊にも及ぶ作品によるものであるが、その暮らしぶりと庭に魅せられたファンは多い。92年の生涯であった。臨終のことばは "joy" の一言であったという。(以後も Tasha に関しては、William J. Hare and Priscilla T. Hare, *Tasha Tudor: The Direction of Her Dreams*, Oak Knoll Press, 1998 と Harry Davis, *The Art of Tasha Tudor*, Little Brown & Co, 2003 を主に参照。また Tasha の最新情報については、<http://www.tashatudorandfamily.com> その他のサイトを利用)

Tasha と Thoreau の縦の関係に戻る。Walden の森で独居生活をしていた Thoreau は、冬のある朝、凍結した湖面の氷の切り出し作業を目撃する。親しくなった日雇い人夫たちは事業主について Thoreau に打ち明ける。

They said that a gentleman farmer, who was behind the scenes, wanted to double his money, which I understand, amounted to half a million already; ("The Pond in Winter" in *Walden*)

この豪農の名前を Frederic Tudor (1783-1864) という。Tasha Tudor の曾祖父にあたる人物である。

Frederic Tudor は、アメリカ北東部で天然水を冬場に採取し保冷しておき、夏場に南方の都市部で販売するというビジネスモデルを考案した人物である。南方とは当初は国内南部であったが、後にカリブ海、ヨーロッパ、アジアも商圏に入るようになる。Thoreau の次のことばはその辺の事情を指したもので

ある。

Thus it appears that the sweltering inhabitants of Charleston and New Orleans, of Madras and Bombay and Calcutta, drink at my well. The pure Walden water is mingled with the sacred water of the Ganges. ("The Pond in Winter" in *Walden*)

Walden の湖は Ganges の大河と合流したのである。

Thoreau の手元には Frederic からの一通の手紙が残っている。購入した黒鉛の代金として小切手を同封する旨のビジネスレターである。(Thoreau の書簡については、Walter Harding and Carl Bode, *The Correspondence of Henry David Thoreau*, Greeneood Press, 1958 を参照) 氷と黒鉛を介して Thoreau は Tasha の曾祖父とつながっていたのである。

Tasha と Thoreau のもう一つの薄い縁は Louisa May Alcott (1832–88) を介するものである。Alcott の父親と Thoreau は同じ村に住む親友同士で、娘の Alcott は Thoreau が近所の児童を対象に企画する遠足の常連であった。Alcott は Thoreau が通った学校に通い、同窓の先輩を尊敬していたという。Thoreau の葬式にも参列し、その様子を友人に手紙で報告している。Tasha は Alcott の *Little Women* (1868–69) 復刻版の挿絵を担当したことがあり、作品のヒロインである四姉妹の磁器製の人形を製作したこともある。

日本の Tasha ファンは絵本の読者というより、暮らしぶりと庭に魅せられた人たちが多い。Tasha 自身の Thoreau への関心も生活のスタイルにある。では両者を横に並べてみたらどうなるか。共通するのは自立型のシンプルライフである。

Thoreau はほとんど自力で建てた小屋でシンプルライフを実践した。表向きは "to front only the essential facts of life" ("Where I Lived and What I Lived For" in *Walden*)

という勇ましいものであった。自発的な耐乏生活と考えていい。小屋の枠組み

と棟上げのときには友人たちの手を借りた。家具類の一部は手造りで、ベッド、テーブル、デスク、椅子、鏡、ランプからなる。他に、火ばし、まき台、やかん、鍋、フライパン、ひしゃく、洗面器、ナイフ、フォーク、皿、カップ、スプーン、油つぼ、糖蜜びんを持ち込んだ。燃料は流木と木の切り株でまかなったというが、ランプの油は買っている。風呂は湖ですませ、食べ物も湖で冷やした。こうして拠点を構え、生活に本当に必要な品を最低限に絞っていく。シンプルライフの生体実験をスタートさせたのである。

Tasha は建てた瞬間から古い家を希望していたという。建て増した納屋と温室は母屋に接続している。家具も農具も食器もすべて時代のものであった。料理はまきストーブを使い、冬は暖炉にまきをくべる。電気ポンプで水を汲み上げ、水道として利用している。当初はバケツで水汲みに行っていたという。室内の照明は電気ではなく手造りのローソクを使う。車、テレビ、ラジオ、新聞とは無縁で、郵便と小荷物の配達サービスは利用している。Tasha の住環境でユニークな点は動物たちと身近に暮らしていることであろう。犬、猫、オーム、シャモ、鳩をペットとして放し飼いし、山羊と鶏は実用目的で飼育している。

Thoreau は茂みを拓いて野菜を植え、水道の代わりに湖水を使い、泉の水を飲んだ。育てた作物だけを食べ、食べきれない分まで育てるようなことをしなければ、わずかな耕作地で足りるという。("Economy" in *Walden*) ところが森の生活における彼の食費の項目には、ライ麦とトウモロコシの挽きわり粉、米、豚肉、糖蜜、食塩が含まれている。また「実験的に食べてみたが失敗であった」食物のリストには、小麦粉、砂糖、ラード、りんご、サツマイモがある。Thoreau は食に関して完全な自給自足を意図していたのではなからう。その証拠に彼は実家や友人宅でよく「外食」していた。Thoreau の食生活はシンプルではあっても自立からほど遠い。

料理が得意な Tasha は、小麦粉と砂糖を除いて食物を自力でまかなっている。山羊乳を搾って飲むのを日課にし、余ったらチーズとバターを造る。余っ

た鶏の卵は地元の生協に委託販売する。菜園では季節の野菜を育て、果樹園ではりんご、なし、桃、いちごが実をつける。ジャムとゼリーも自家製である。Tasha の食生活はシンプルにして自給自足に近い。

衣服の存在理由は保熱のためだけにあると考えていた Thoreau は、機能優先で安服を買っていた。厚手の服が 1 着あれば、薄い服の 3 着分の用を足すし、5 年はずっと豪語している。しょせん衣服は外皮に過ぎず、剥ぎ取っても命に別状はないという論法である。("Economy" in *Walden*) 気になるのは洗濯ものと繕いものを「外部」に出していたことである。「外部」とは実家の他にない。これではボーイスカウトのキャンプにも劣る。

Tasha は思考も外見も 19 世紀風であった。編みものと縫いものが好きで、手製の衣服の中には糸つむぎから始めたものもあったという。春夏の定番は小花模様の長袖ワンピースに花柄のエプロン。花をあしらったスカーフはマフラーにもバンダナにもなる。秋冬には防寒着が加わるだけ。開拓時代の農家の老女という趣で、質実な感じの中にも品格がある。彼女の普段着は今でもトラッド系の服として通用しそうである。現に Tasha は請われてファッションデザインを手がけたことがあるという。

Tasha の住環境の中で特筆すべきは庭の存在である。空き地で種まきから始めた庭は、50 年の歳月を経て、季節の花が咲き乱れるナチュラルガーデンに成長した。(ここでいうナチュラルガーデンとは、人工物が不在で、人為の跡が希薄な、自然のままに見える庭を指す) ただナチュラルガーデンといえども自然に似せた庭であり、自然ではない。造園とは自然を壊して人為の空間を造る行為でしかないからだ。Tasha は広大な土地の大部分を野鳥の生息する森のままにしてある。庭は広大な森の一角を占めているに過ぎない。公道から庭の方向に伸びる長い私道の両側は草地になっている。その草地を「緩衝地帯」と呼び、Tasha は "(a) half naturalist and half gardener" であるという指摘には納得がいく。(Tovah Martin and Richard W. Brown, *Tasha Tudor's*

Garden, Houghton Mifflin, 1994) 草地は公の世界と私の世界を分かち中間地帯で、長いアプローチは聖地への参道みたいなものであろう。Tasha はナチュラルガーデンという閉ざされた空間の中で自然と接した。ちなみに火葬された彼女の遺灰は、よく裸足で歩いた庭に散葬されたという。

Thoreau にも庭師の経験があるが、それは石工や大工など他の日雇い仕事と同類のものであった。彼の場合は遠出の旅や日課の散策、それにプロを自認していた測量の仕事を通して、開かれた自然と接することが多かった。のどかな田園風景が彼の庭代わりであった。

And for my afternoon walks I have a garden, larger than any artificial garden that I have read of and far more attractive to me . . . (*Journal*, June 20, 1850) (Thoreau の描く植生図について Peter Loewer, *Thoreau's Garden*, Stackpole Books, 1996 が詳しい)

牧歌的な故郷を離れ Maine 州の森へ旅した Thoreau は、山頂でまったく異質な自然に遭遇する。それは決して飼いならされることのない原始の自然 ("vast, Titanic, inhuman Nature") であった。(*Maine Woods*, 1864) 帰郷した彼は、飼いならされた自然こそが自分の居場所であることを確認する。Concord の田園風景に染まりながらも、Thoreau は野性的なものへの憧憬を禁じえない。野生は文明社会の活力限になると信じていたからである。村の周辺に点在する沼が彼の身近な野生であった。むき出しの自然は人間を寄せ付けない。文明社会は野性の自然から隔離されている。Thoreau の沼は "a swamp on the edge of town" という住環境モデルを提案している。市街地の中に自然を取り入れるという形で、現代の都市計画で常識になっているコンセプトである。(Daniel B. Botkin, *No Man's Garden*, Island Press, 2001)

Tasha と Thoreau を縦と横から見てきた。Thoreau と Tasha の曾祖父は

商取引の当事者として接点あり、また両者とも Louisa May Alcott に縁があった。次に Tasha と Thoreau 生活スタイルを比べてみた。双方とも自立型のシンプルライフを実践している。衣食住に関しては、Tasha の方がより徹底して生活必需品を自力生産している。どちらも文明の利器を必要最小限に活用しているのは、根が実用を重んじるヤンキーだからであろう。名を捨てず実も取るのがヤンキーならば、二人は紛れもなくヤンキーである。Thoreau はペンで身を立てるまでペンシルを造り、Tasha はペンで身を立て広大な土地を手に入れた。シンプルライフにも元手は要る。実は Tasha は Thoreau が 2 年余で森の生活をたたんだことに批判的であるが、シンプルな生活スタイルは Thoreau 終生のものであったという。Tasha 自身のシンプルライフの期間は Thoreau の寿命をゆうに超えている。自給自足はシンプルな生活を容易にするのに有効であるが、問題は自給率より独立自尊の精神であろう。また文明の利器は賢明に活用すべきであり、排斥する意味などまったくない。(機械文明の侵入による田園の破壊を論じているのは、Leo Marx, *The Machine in the Garden*, Oxford Univ. Press, 1964)

次に自然との接し方について両者を並列してみた。Thoreau は村はずれに沼がある田園生活が性に合っていた。庭代わりに周辺の自然を観察し記録した。その結果は後世の自然保護運動に大きく寄与することになる。(この件で説得力があるのは、David R. Foster, *Thoreau's Country*, Harvard Univ. Press, 1999) Thoreau は公の目で自然と接していたことになる。しばしば "an icon of environmentalism" と評されるゆえんである。Tasha は村はずれの森の中に庭を造り、仙女のような生活を送っていた。庭という小宇宙で私の生き方に徹している。自立した高齢独居生活の理想に近い。しばしば "a lifestyle icon" と評されるのは、現代のスローライフを実践しているからでもであろう。Tasha は自宅の窓際でまっすぐ伸びる蔓に親近感をもっているという。本性に逆らうと植物も人間も生きてはいけないと Thoreau も "Civil Disobedience" の中で

言っている。("If a plant cannot live according to its nature, it dies; and so a man.") 二人とも根っからの自由人であった。Tasha と Thoreau の共通項は案外この辺にあったのかもしれない。